

西濃農林事務所の普及活動状況

平成24年5月31日現在

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー

各地で栽培反省会開催

23年度の出荷量は、29,623 ケース（対前年比 133%）、販売金額 3,643 万円（対前年比 133%）であったが、市場から求められた 12 月下旬から 1 月の需要に対応できなかったという課題が残り、5 月 11 日に安八部会、5 月 17 日に大垣部会で栽培反省会と総会が開催された。

農業普及課からは、23 年度の反省を踏まえ、24 年度の対策として、新品種の導入、排水対策の徹底、年明け出荷となる株への防除や追肥などを提案し、育苗管理を支援していくことについて説明した。

売れる農産物づくり

■水稲

田植え状況

早期あきたこまちの田植えが、4 月 10 日に海津市で始まっており、ひとめぼれ、コシヒカリ、あさひの夢、ハツシモの順に 6 月中旬まで田植えが行われる。今月中に、あさひの夢がほぼ終了し、6 月上旬からハツシモの田植えピークを迎える見込みである。

また、直播栽培については、海津市、養老町、輪之内町を中心に、乾田直播と湛水直播を合わせて、100ha を上回る作付が行われている。

農業普及課では、研修会や巡回を通して、栽培暦に基づく適正な栽培管理とともに、除草剤等農薬の安全使用について支援している。

■小麦

生育状況

3 月中旬～4 月上旬に低温傾向が続いたため、小麦の出穂期は平年より 7～10 日程度大幅に遅れ、イワイノダイチは 4 月 13 日～26 日で昨年より 3～5 日遅く、農林 61 号は 4 月 18 日～5 月 1 日で昨年並みであった。赤かび病防除時期も大幅に遅れたが、開花期頃と、その 7～10 日後の 2 回防除が徹底され、現在の赤かび病の発生はわずかである。

出穂期から成熟期までに必要な積算温度から判断して、収穫期は、イワイノダイチが 6 月 6 日～15 日、農林 61 号が 6 月 10 日～18 日と予想され、2 品種の収穫期の差が小さいため、J A との連携のもと、ほ場巡回による情報提供や C E 等施設稼働会議等により、適期収穫に向けて支援してゆく。

■きゅうり

黄化えそ病対策チーム活動

5 月 10 日に、きゅうり黄化えそ病対策チーム（農産園芸課、農業経営課、農業技術センター、病虫害防除所、西濃農林事務所）で、現地検討会を開催し、現在の黄化えそ病やミナミキイロアザミウマの発生状況の調査や今後の活動の検討を行った。

今後、これまでの活動を取りまとめた対策マニュアルを作成し、6 月 22 日に、海津胡瓜部会の黄化えそ病対策研修会にて発表することとしている。



黄化えそ病対策チームの現地調査

■トマト

トマト部会全員研究会開催

海津トマト部会全員研究会が 5 月 13 日に開催され、農業普及課からは、次年産の対策として、台木の選定、土壌消毒、土づくり、病虫害対策、肥培管理、環境制御について説明した。

生産者は熱心に聞き入り、とくに台木の選定や、青枯病に効果のある糖蜜による土壌還元消毒（青枯病）に関心が高まった。

■甘長ピーマン（海津市）

出荷協議会・目揃会開催

4月の低温の影響を受け、出荷量は少なく推移したものの、5月中旬から日量100ケース（120g×30袋）程度が出荷されている。

品質の良い甘長ピーマンを出荷するため、5月8日に出荷協議会、17日に目揃会が開催され、今後の販売方針、共選出荷規格の確認等が行われた。農業普及課からは、5月に入りアザミウマ類・アブラムシの発生が増えているため、早期発見・早期防除の実施を呼びかけた。

■小松菜・グリーンねぎ・モロヘイヤ

下宮青果部会協議会の各部会目揃会開催

昨年度は、震災の影響で葉ねぎの価格低迷が長く続いたこともあり、周年の作付けを減らし、小松菜を栽培する農家が増えたため、小松菜部会としては前年を上回る出荷実績・販売金額となった。モロヘイヤは、昨年はハウス栽培の降雨に左右されない利点を大きく生かすことができている。

24年度出荷規格の統一のため、小松菜部会は4月24日、グリーンねぎ部会は5月8日、モロヘイヤ部会は5月11日に目揃会が開催された。いずれの部会においても、農業普及課からは、新年度の栽培に合わせた防除暦等について説明し、生産性向上について支援している。

■いちご

平成23年産の出荷終了

4月下旬から出荷量が減っており、一部を除いて出荷終了となってきている。5月上旬までの西濃管内の累計出荷量は、約164万パックと前年比82%であった。

親株は、概ね順調な生育で、ランナーの発生が始まっている。炭そ病等の病害虫防除、適切な灌水管管理、追肥の実施、株の整理等を指導している。5月15日に平田、16日に海津で栽培研修会が開催され、平成23年産の反省と平成24年産の育苗管理について指導を行った。

■なし

病害虫発生予察調査に基づく病害虫防除支援

豊水・なつしずくは4月23日～25日、幸水は4月25日～26日に開花期を迎え、4月下旬からの高温の影響で花の留まりは良好である。

フェロモントラップによるナシヒメシンクイ、コカクモンハマキ、チャハマキの発生予察調査等の結果について、巡回により生産者等に情報提供を行った。また、赤星病が多発しており、研修会等で防除指導を行った。

魅力ある農村づくり

■鳥獣被害防止対策

養老町で現地検討会開催

5月29日、養老町養老・上多度地区で、鳥獣被害防止対策現地検討会が開催された。農業普及課等により現地の被害状況を調査した後、各集落の役員等約30名の参加の下、県鳥獣害対策監の「平成の里普請」と称する実例に基づく熱心な講義に対し、多くの質問が出され、関心の高さとともに、今後の具体的な行動が期待できる有意義な検討会となった。

県民みんなで育む農業・農村

■かき

小学生が摘蕾作業を体験

5月23日、海津市立城山小5年生約65人が、学校柿園で摘蕾作業を体験した。農業普及課から、摘蕾方法の説明、実演を行い、班ごとに分かれ、担当する柿の摘蕾体験を行った。

高い枝の摘蕾は、脚立を利用して作業し、一人が作業する間、他の班員は、脚立の基を支えるなど協力して作業を行った。摘蕾に役立つ竹枝引掛棒も利用して作業した。



城山小柿園での摘蕾作業

